北海道医師会役員

就任のご挨拶

北海道医師会常任理事 就任のご挨拶

常任理事
札幌市医師会
医療法人社団すえおかこどもクリニック 理事長・院長
末岡裕文（すえおかひろふみ）

この度、北海道医師会常任理事を拝命いたしました末岡裕文と申します。会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、小樽市に生まれ、札幌医科大学を卒業し、同大学附属病院の小児科学講座に入局いたしました。その後、北海道内各地の関連病院に勤務した後、平成14年に札幌市清田区ですえおかこどもクリニックを開業いたしました。医師会活動は平成19年に札幌市医師会清田区支部の幹事となり、札幌市医師会の委員を務めるようになりました。そして、平成23年に当時の清田区支部の下段光裕支部長よりご推薦を賜り、札幌市医師会理事を務めることになりました。そして、今年の令和７年６月まで７期14年間、執行部の役員を務めさせていただきました。この間、いろいろな部署に所属し、小児科医としてだけでは経験できないことを、たくさん経験し、学ぶことができ、多くのかたとご縁をいただくことができました。本当にありがとうございました。

このたび、札幌市医師会の今眞人会長よりご推薦を賜り、令和７年６月14日の第169回北海道医師会定時代議員会で常任理事を拝命いたしました。担当部は部長として地域保健部、そして医療関連事業部、医療保険部、救急医療部になりました。就任して、およそ１か月が過ぎ、常任理事会に出席し、北海道庁での会議、委員会等にも出席するようになりましたが、分からないことだらけです。今後は、よりいっそう勉強して、北海道医師会のため、会員の皆様のため、北海道民のために頑張る所存でございます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

北海道医師会監事 就任のご挨拶

監事
苫小牧市医師会
苫小牧市保健センター 顧問
松岡伸一（まつおかしんいち）

この度、北海道医師会監事を拝命しました松岡伸一と申します。私は、1981年に北海道大学医学部を卒業し、同大第一外科に入局しました。大学病院および関連病院で研修を行った後、1998年からは、札幌市厚別区の札幌社会保険総合病院（現JCHO札幌北辰病院）に勤務しました。その頃はまだ若くて臨床医学にしか興味がありませんでしたが、当時の佐野文男院長が医師会活動に熱心であり、なかば強制的に札幌市医師会厚別区支部の役員になりました。札幌市医師会での活動も少々させていただきましたが、今考えてみると非常に貴重な経験でした。

2014年に苫小牧市立病院に異動になり、１年後に苫小牧市医師会副会長に就任し、北海道医師会の代議員会にも参加させていただきました。2018年の北海道胆振東部地震の時は、苫小牧市立病院にDMATの対策本部が置かれましたが、当時の北海道医師会・長瀬会長と目黒常任理事がわざわざ激励に駆けつけていただき、大変心強く感じました。

2019年からは、全国自治体病院協議会の北海道支部長を拝命しました。ちょうどコロナ禍が始まる直前でしたが、５年間の任期のほとんどはコロナの対応にあたりました。その際、北海道医師会は、北海道の各病院団体の活動のまとめ役となっていただき、大変感謝しております。

今年度の役員改選で、私は苫小牧市医師会副会長を退任しましたが、ちょうど同じタイミングで北海道医師会監事を長く務めておられた藤瀬先生が監事の職を辞することとなり、沖苫小牧市医師会長から、藤瀬先生の後任として私を推薦していただいたという次第です。

これまでも北海道医師会には何かとお世話になってまいりましたが、私はずっと北海道医師会の外側の立場で活動しておりました。今後は北海道医師会の内部で活動することになり、若干の違和感があるにはありますが、少しでもお役に立てるように努めてまいりたいと考えております。なにとぞよろしくお願いいたします。

北海道医師会理事
就任のご挨拶

理事
小樽市医師会
医療法人社団大本内科クリニック 理事長･院長
大本晃裕（おおもと あきひろ）

このたび、北海道医師会理事を拝命いたしました大本晃裕と申します。微力ながら地域医療の発展と会の円滑な運営に尽力する所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

私は昭和59年に順天堂大学医学部を卒業後、北海道大学第二内科に入局し、膠原病グループに所属いたしました。市立札幌病院では、リウマチ性疾患やアレルギー疾患、血液疾患を中心に診療を行い、造血幹細胞移植の導入と体制整備に注力いたしました。

平成９年より、父が開設した小樽市の診療所を継承し、現在に至っております。一般内科診療に加え、関節リウマチを中心とするリウマチ性疾患の専門診療を行っております。後志管内全域より多くの患者さんにご来院いただいております。関節リウマチの患者数は約600名にのぼり、そのうち約３分の１の方が生物学的製剤またはJAK阻害薬を使用しています。

医師会活動におきましては、小樽市医師会にて理事・副会長としてそれぞれ２期４年ずつ務め、令和６年６月より会長を拝命いたしました。小樽市は、かつて20万人を超えていた人口が減少を続け、現在は10万人を下回る瀬戸際にあります。高齢化率も41.8％と極めて高く、2045年には50％を超えると予測されています。３校あった看護職員養成機関も来年度からは１校のみとなり、４つの基幹病院も医師や看護師の確保が困難となっており、開業医の減少・高齢化も相まって休日・夜間の救急医療体制の維持が危ぶまれる状況です。加えて冬期の交通事情や単身高齢者の増加という地域特性の課題も重なり、地域医療を支える体制構築づくりの難しさを日々実感しております。

このような状況下での理事就任にあたり、身の引き締まる思いですが、誠心誠意努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

北海道医師会理事
就任のご挨拶

理事
旭川市医師会
医療法人社団志恩会相川記念病院 理事長･院長
中條拓（なかじょう たく）

この度、副議長に選出された滝山義之旭川市医師会会長の後任として道北ブロックから推薦を受け、第169回定時代議員会におきまして北海道医師会理事への就任を承認いただきました。

私は昭和59年に旭川医科大学を卒業し、以来精神科医として仕事をしてまいりましたが、公立病院での勤務が長く、その期間は医師会活動とはほとんど無縁で過ごしてまいりました。

平成24年に現在の勤務先である相川記念病院に院長として赴任し、10年前に当時の旭川市医師会長でおられた山下裕久先生からお誘いを受けて旭川市医師会の理事として仕事をさせていいただく機会を得ました。４年前からは旭川市医師会副会長に選任していただいております。

65歳を迎え、精神科医として長年地域医療に携わってまいりましたが、今回このような重責をお預かりすることとなり、改めて身の引き締まる思いでございます。

医療を取り巻く環境は日々大きく変化しており、物価高騰、なかなか上がらない診療報酬、開業医の高齢化による救急当番維持の困難化、少子化による看護学校の定員割れなど様々な問題が我々医療者の身に降りかかってきていることを実感しています。そうした問題に個人の力で対応することは困難であり、多くの医療従事者が一致団結して対処していくことの必要性を、医師会の仕事を続けていく中で強く実感しております。

これまでの経験を活かし、北海道医師会の発展に貢献できますよう努めてまいりますので、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

北海道医師会理事
就任のご挨拶

理事
旭川医科大学医師会
旭川医科大学社会医学講座 教授
西條泰明（さいじょう やすあき）

この度、理事に就任いたしました旭川医科大学社会医学講座の西條泰明です。どうぞよろしくお願いいたします。私は道北の名寄市出身で名寄高校から旭川医科大学に進学、その後、当時の旭川医科大学第一内科とその関連病院で９年間、主に循環器内科医として勤務後、北海道大学の公衆衛生学講座の大学院で学位を取得し、研究者・教員として社会医学に携わってまいりました。その間、日本産業衛生学会認定産業衛生専門医・指導医として実務に携わってきたこともあり、地域医療＋医療職の過重労働やメンタルヘルスなどの負担を一つのテーマとして研究を続けおります。最近の状況では、医師の働き方改革に加え、コストプッシュ型インフレが診療報酬改定に追いつかない状況となり、大学病院に加えて医療機関全般に厳しい状況が続いている状況となっている中、なし崩し的に地域医療が崩壊しないように医師会の働きが重要になると思います。また、医師会の加入率が上昇しない問題もあるようですが、弱者や地方の切り捨てとならないよう、国民皆保険維持のためには医師会の加入率増加と、医師会と他職種の医療関係者の会との連携が重要ではないかと考えております。

産業保健については、日本産業衛生学会北海道地方会長を担当しておりますので、連携して産業医活動の発展に寄与できればと考えております。特に、北海道では中小企業への対応が不十分な面もあると感じますので、地域産業保健センターの役割は非常に重要になっていると思います。

最後になりますが、医師会についての私の理解不足の面もあり、どのようにお役に立てるか試行錯誤になり、至らぬ点も多々あると思いますが、精いっぱい担当させていただく所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

北海道医師会代議員会議長
就任のご挨拶

代議員会議長
函館市医師会
独立行政法人国立病院機構函館医療センター 特別院長
大原正範（おおはら まさのり）

このたび、北海道医師会代議員会議長に選任いただきました。

私は、都立国立高校（同じ学校群が都立立川高校、日医松本会長の出身校）を卒業後、１浪して1979年北海道大学に入学、1985年に卒業し第二外科に入局。

北大麻酔科と関連病院研修後、国立がん研究センター中央病院食道外科レジデントとして３年間国内留学、恵佑会札幌病院を経て1999年から国立函館病院（現、国立病院機構函館医療センター）で勤務しています。

2014年から2016年まで病院長、以降特別院長で現在に至っています。

函館市医師会では、2014年から理事、2016年から副会長、2023年から会長を務めさせていただいております。

函館市医師会の先輩方は大変、先進的、意欲的で昭和時代から多くの事業を展開してきました。

医師会病院、健診検査センター、看護学校、リハビリ学校、道南医学会、道南医学会ジャーナル、夜間急病センター（委託）等です。

年間予算はコロナ時では約70億円に及びました。

現在、人口減少に伴い多くの事業で財務的危機に直面しています。

人口減少、Ａ会員減少に応じて、自分たちの規模に見合った事業の縮小化が当面の課題です。

滑舌も決して良いとはいえませんが、代議員会が円滑かつ有益となるよう職務を一生懸命にやる所存です。

皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

北海道医師会代議員会副議長就任のご挨拶

代議員会副議長
旭川市医師会
医療法人社団滝山内科医院 理事長･院長
滝山（たきやま）　義之（よしゆき）

６月14日の第169回定時代議員会で代議員会副議長に選任されました、滝山義之です。わたくしは、昭和55年旭川医科大学（２期生）を卒業し、同大の第２内科、現在の内分泌・代謝・膠原病内科に入局し、大学院修了後２年間の米国留学を経て、平成５年より内科開業医として働いております。旭川市医師会の役員として理事４期、副会長３期、会長として令和３年より３期目を務めています。旭川市教育委員会委員を８年間、北海道国民健康保険診療報酬審査委員を19年務めました。北海道医師会の代議員12年、理事を４年務めた後、この度の代議員会副議長に選任されました。

さて、人口減少、少子高齢化や人件費上昇、物価高騰など医療を取り巻く環境は年々厳しくなっています。６月の第159回日本医師会定例代議員会でも、一般質問で、診療報酬に関する質問、セルフメディケーションとOTC類似薬の問題、医療DX、地域医療の担い手不足、医療関係の職業紹介業者の高額な紹介料の問題など全国共通の課題が取り上げられていました。地元旭川市においても医師会会員の高齢化、それに伴う在宅当番医制で運営している一次救急の維持が困難になり、閉鎖医療機関の増加、患者数の減少や医療従事者不足による病棟削減など少子高齢化による諸問題が顕在化しています。旭川市の位置する道北地域では2050年問題にて、人口の大きく減少する市町村が数多くあり、地域の医療をどう守るかが今後の重要な問題です。医師過剰地域から医師を配置換えで済むということだけでは解決できない問題です。北海道医師会、郡市医師会が共通の認識を持ち、これらの諸問題に取り組んでいけるよう、代議員会が活発な討論の場になるよう副議長として取り組んでまいります。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。